## 三重県経済の現状と見通しく2025年11月>

## 1. 景気判断 一覧表

部門	個別項目	水準評価 ※1		基調判断(前月比較)※2 詳細
 総括判断	 景気の現状	As		一部に弱さがみられるものの、持ち直しの動きがみられる
				住宅投資や輸出に弱さがみられるものの、観光や企業活動は持ち直している など、持ち直しの動きがみられる。
	個人消費	* *		持ち直している 
				勤労者世帯・消費支出は、3か月ぶりの前年比増加
	住宅投資			減少傾向にある 
家計部門				住宅着工戸数は、6か月連続の前年比減少
	観光	* ~		回復傾向にある 
				外国人宿泊者数は、8か月連続の前年比増加
	雇用·所得	* *		持ち直し傾向が一服 
		.,,,,		有効求人倍率(季節調整値)は、2か月ぶりの上昇
	企業活動	- Oct		足踏み 
				鉱工業生産指数は、3か月ぶりの前年比上昇
企業部門	企業倒産	<u> </u>		悪化しつつある
				倒産件数は、2か月ぶりの前年比減少
	設備投資			持ち直しの兆し
	以加以只			民間非居住建築物着工面積は、3か月ぶりの前年比増加
海外部門	輸出			減少している
\#\$\  \  □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	刊出	J		四日市港通関輸出額は、15か月連続の前年比減少
公共部門	公共投資			持ち直しつつある
ムス即し	4六汉具	••		公共工事請負金額は、4か月連続の前年比増加
その他	物価			上昇している
C O J III	17271四			津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、45か月連続の前年比上昇

#### 当面の見通し

## 物価高や世界経済の不透明感から、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し

個人消費の回復が期待される一方、日中対立の緊迫化やトランプ政権の関税政策など世界経済を巡る 不透明感は強く、景気持ち直しのテンポは弱まる見通し。

- ※1「水準評価」は、景気全体ならびに個別項目の水準について5段階で判断するもので、
  - ※:晴、☀|▲:晴~曇、▲:曇、▲|◆:曇~雨、◆:雨、を示す。
- ※2「基調判断(前月比較)」は、基調判断の表現を前月と比べたもので、

⊘:上方修正、⇒:据え置き、★:下方修正を示す。

(例えば、「回復」→「減速」となれば下方修正、「回復」→「回復」なら据え置き、となる) したがって、矢印は景気全体ならびに個別項目の方向感を示すものではない。

個別項目の見通しは、特に表記がない場合には先行き半年間程度の見通しを示す。

お問い 合わせ先 三十三総研 調査部 古橋

電話:059-354-7102 Mail:33ir@33bank.co.jp

## 2. 個別部門の動向:家計部門

個人消費	水準	評価	* •					
個人用頁	基調判断	前月比較	Î	詳細	持ち直している			

#### ≪現状≫

- ○個人消費は、持ち直している。
- ○個人消費の動向を支出者側からみると、9月の勤労者世帯消費支出(津市)は前年比+20.5%と3か月ぶりの増加(図表1)。勤労者世帯可処分所得(津市)は同▲0.9%と7か月連続の減少。
- ○個人消費の動向を販売者側からみると、9月の大型小売店販売額(百貨店とスーパーの合計額)は、全店ベースは前年比+2.1%、既存店ベースも同+0.7%とともに7か月連続の増加(図表2)。全店ベースを商品別にみると、飲食料品(同+3.5%)が11か月連続で増加し、全体を押し上げ。
- ○10月の新車乗用車販売台数(含む軽)は、6,750台(前年比+2.7%)となり、前年比で2か月連続の増加(図表3)。車種別にみると、普通車(同▲4.4%)は2か月ぶりに減少した一方、小型車(同+0.2%)は3か月ぶりの増加、軽乗用車(同+12.8%)は3か月連続で増加した。

#### ≪見通し≫

○東海地域の現状判断DI(内閣府「景気ウォッチャー調査」)をみると、10月の家計部門の水準は47.9と10か月連続で好不況の分かれ目となる50を下回った。2~3か月先の先行きに対する判断DIについては、52.9と前月(47.0)から上昇し、好不況の分かれ目の50を18か月ぶりに上回った。引き続き、所得環境の改善や株高を受けた資産効果による個人消費の回復に期待が持てる一方、長引く物価上昇が懸念材料に。

## ◆9月 勤労者世帯・消費支出

○ 307千円 前年比 +20.5% (3か月ぶりの増加)

### ◆9月 大型小売店販売額

○全店 前年比 +2.1% (7か月連続の増加)○既存店 前年比 +0.7% (7か月連続の増加)

### ◆10月 新車乗用車販売台数<含む軽>

○ 6,750台 前年比 +2.7% (2か月連続の増加)

·普通車 2,776台

前年比 ▲4.4% (2か)

(2か月ぶりの減少)

•小型車 1,333台

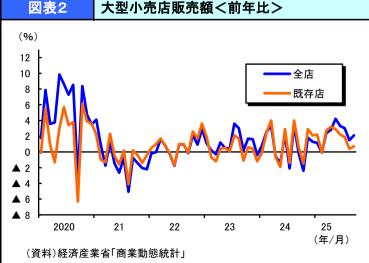
前年比 +0.2%

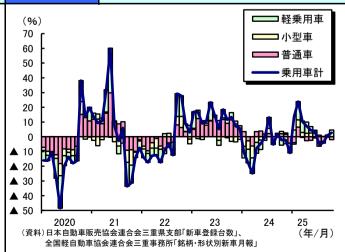
(3か月ぶりの増加)

·軽乗用車 2,641台

前年比 +12.8% (3か月連続の増加)

#### 図表1 津市消費支出等<前年比> ■勤労者世帯・可処分所得(6か月後方移動平均) (%) ·勤労者世帯・消費支出(原数値) 90 同上(6か月後方移動平均) 80 70 60 50 40 30 20 10 0 **▲** 10 **A** 20 **▲** 30 **4**0 2020 21 22 23 (資料)総務省「家計調査」 (年/月)





新車乗用車販売台数<前年比>

図表3

<b>住</b> 字也姿	水準	評価							
<b>正七</b> 权具	基調判断	前月比較	Î	詳細	減少傾向にある				

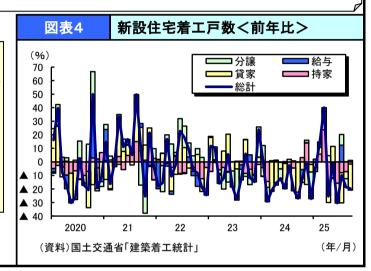
#### ≪現状≫

- ○住宅投資は、減少傾向にある。
- ○9月の住宅着工戸数は、534戸(前年比▲19.5%)となり、前年比で6か月連続の減少(図表4)。利用関係別にみると、分譲住宅(同+11.6%)が2か月ぶりに増加したものの、持家(同▲3.0%)が6か月連続、貸家(同▲54.2%)が4か月連続でそれぞれ減少。

### ≪見通し≫

○先行きは資材価格の高止まりなどに伴う住宅価格の上昇、金融政策の変更に伴う住宅ローン金利の上昇懸念に加え、2025年4月から建築物省エネ法と建築基準法が改正されたことによる省エネ基準の厳格化を受け、住宅投資の抑制が長引く恐れも。

#### ▶9月 住宅着工戸数 ○ 534戸 前年比 ▲19.5% (6か月連続の減少) ·持家 353戸 前年比 ▲3.0% (6か月連続の減少) 貸家 104戸 前年比 ▲54.2% (4か月連続の減少) ·給与住宅 0戸 (4か月ぶりの減少) 前年比 ▲100.0% •分譲住宅 77戸 (2か月ぶりの増加) 前年比 +11.6%



粗米	水準	評価		<u></u>				
<b>東ルノ</b> し	基調判断	前月比較	$\uparrow$	詳細	回復傾向にある			

## ≪現状≫

- ○観光は、回復傾向にある。
- ○8月の三重県内施設延べ宿泊者数は、1,028千人泊(前年比+12.6%)となり、前年比で2か月連続の増加(図表5)。外国人宿泊者数は23千人泊(同+42.0%)と、前年比で8か月連続の増加。

#### ≪見通し≫

○三重県の伊勢、志摩、鳥羽の3市などからなる伊勢志摩観光コンベンション機構は伊勢神宮が20年に1回 社殿を建て替える2033年の式年遷宮に向けた観光活性化の長期プロジェクトを開始。今後、大都市圏での プロモーションや周遊キャンペーン、二次交通の改善などに取り組むことで伊勢志摩エリア3市1町の2028年 の延べ宿泊客数を、前回の式年遷宮があった2013年に比べ9%増の458万人に引き上げる方針。

## ◆8月 県内施設延べ宿泊者数

○ 1,028千人泊

前年比 +42.0% (8か月連続の増加)

#### 図表5 三重県内施設延べ宿泊者数 ■延べ宿泊者数(左目盛) 前年比(右目盛) (%) 同上(6か月後方移動平均、右目盛) 200 150 100 (千人泊) 50 1 400 0 1,200 50 1,000 ▲ 100 800 600 400 200 (年/月) (資料)国土交通省観光庁「宿泊旅行統計調査」

雇用•所得	水準	評価	*				
准用"別付	基調判断	基調判断 前月比較		詳細	持ち直し傾向が一服		

#### ≪現状≫

- ○雇用・所得情勢は、持ち直し傾向が一服。
- ○9月の有効求人倍率(季節調整値)は、1.18倍(前月差+0.04ポイント)と2か月ぶりの上昇。新規求人倍率 (季節調整値)は、1.94倍(同▲0.09ポイント)と2か月連続の低下(図表6)。
- ○9月の新規求人数は、学卒・パートを除くベースで前年比+7.6%と3か月連続の増加(図表7)。業種別にみると、製造業(同+2.3%)では食料品(同▲41.9%)などが減少した一方、化学工業(同+79.6%)やプラスチック製品(同+43.9%)などが増加した。非製造業では、運輸業,郵便業(同▲13.7%)や医療,福祉(同▲3.2%)などが減少した一方、サービス業(同+32.7%)や建設業(同+13.2%)などが増加した。
- ○8月の所定外労働時間指数は、前年比+4.3%と15か月連続の上昇。名目賃金指数(同+2.5%)は17か月連続、きまって支給する給与(同+0.8%)は26か月連続の上昇(図表8)。

#### ≪見通し≫

○所得については、物価高を踏まえたベアの広がりや最低賃金の上昇、人手不足感の深刻化を受けて今後 も幅広い業種で賃金上昇が期待される。

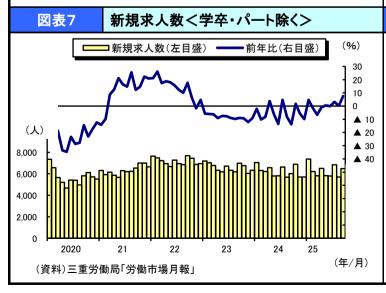
## ◆9月 求人倍率<季節調整値>

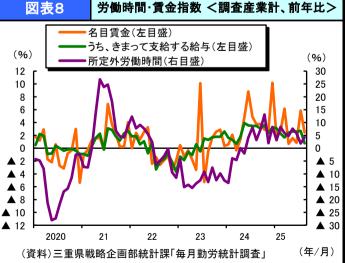
- 有効求人倍率 1.18倍
  - 前月差 +0.04ポイント (2か月ぶりの上昇)
- 新規求人倍率 1.94倍
  - 前月差 ▲0.09ポイント (2か月連続の低下)

#### ◆9月 新規求人数<学卒・パートタイム除く>

- 前年比 +7.6% (3か月連続の増加)
- ◆8月 労働時間・賃金指数<調査産業計>
- 所定外労働時間指数
  - 前年比 +4.3% (15か月連続の上昇)
- ○名目賃金指数
  - 前年比 +2.5% (17か月連続の上昇)
  - ・きまって支給する給与
    - 前年比 +0.8% (26か月連続の上昇)

### 図表6 有効・新規求人倍率<季節調整値> ●有効求人倍率(三重県) 新規求人倍率(三重県) (倍) 有効求人倍率(全国) 2.6 2.4 2.2 2.0 1.8 1.6 1.4 12 1.0 2020 (年/月) (資料)三重労働局「労働市場月報」





## 3. 個別部門の動向:企業部門

<b>企業活動</b>	水準	評価	A				
正未心判	基調判断	前月比較	$\Rightarrow$	詳細	足踏み		

#### ≪現状≫

- ○企業の生産活動は、足踏みしている。
- ○9月の鉱工業生産指数は、前年比+6.3%と3か月ぶりの上昇(図表9)。業種別にみると、化学工業 (同▲5.6%)などが低下した一方、輸送機械工業(同+10.1%)や食料品工業(同+23.1%)など が上昇した。

## ≪見通し≫

- ○先行き生産は、日米関税交渉が合意に至り、自動車にかかる関税は当初の25%から15%に引き下げられ、 予想していたシナリオより影響が緩和されることや不透明感が払拭されたことから、持ち直しの傾向となる見通 し。
- ○井村屋(津市)は津工場内に新たなアイス工場を建設すると発表した。「あずきバー」シリーズを中心とした 冷凍食品の供給体制強化と新たな付加価値の創出を目的に、約40億円を投じて延べ面積2,276㎡の新工場 を建設する。竣工は2026年6月を予定。

## ◆9月 鉱工業生産指数<2020年=100>

○ 110.9 前年比 +6.3% (3か月ぶりの上昇) ・汎用・生産用・業務用機械工業

前年比 +7.5% (2か月ぶりの上昇)

・電子部品・デバイス工業

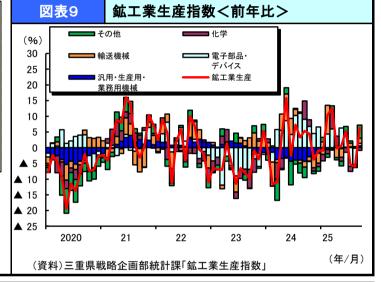
前年比 +3.4% (3か月ぶりの上昇)

·輸送機械工業

前年比 +10.1% (2か月ぶりの上昇)

•化学工業

前年比 ▲5.6% (5か月連続の低下)



<b>小学</b>	水準	評価			A
正未倒庄	基調判断	前月比較	$\Leftrightarrow$	詳細	悪化しつつある

## ≪現状≫

- ○企業倒産は、悪化しつつある。
- ○10月の県下倒産状況(負債総額1,000万円以上)をみると、件数は8件(前年比▲3件)と2か月ぶりの減少。 負債総額は506百万円(前年差▲664百万円)と3か月連続の減少(図表10)。

#### ≪見通し≫

○新型コロナ対策として実施された「ゼロゼロ融資」の返済本格化から一定期間経過するなか、金利上昇や物価 高を受け、中小企業の経営環境は厳しさを増しており、企業倒産は増勢基調をたどる懸念も。

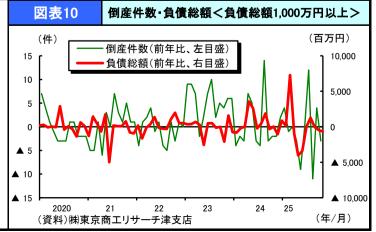
## ◆10月 企業倒産

○ 倒産件数 8件

前年比 ▲3件 (2か月ぶりの減少)

○ 負債総額 506百万円

前年比 ▲664百万円 (3か月連続の減少)



<b>业准</b> 也咨	水準	評価		A				
<b>汉</b> 佣仅貝	基調判断	前月比較	$\hat{\mathbb{T}}$	詳細	持ち直しの兆し			

#### ≪現状≫

- ○企業の設備投資は、持ち直しの兆し。
- ○9月の民間非居住建築物着工床面積は、234千㎡(前年比+284.6%)と前年比で3か月ぶりの増加。10月の貨物車登録台数(除く軽)は、399台(同+3.1%)と前年比で2か月連続の増加(図表11)。

## ≪見通し≫

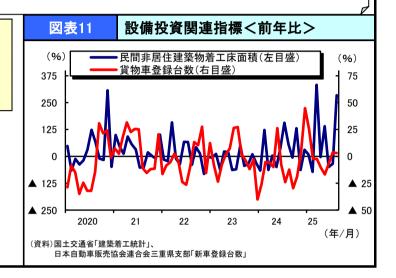
○医薬品メーカーの中外医薬生産(伊賀市)は、伊賀市に新工場を建設する。 近年、健康維持への予防意識の高まりや社会保障費増大によるOTC(薬局等で処方箋なく購入できる「要指導 医薬品」と「一般指導医薬品」)医薬品需要が拡大しており、OTC医薬品を安定供給できる体制を構築する。 投資額は100億円で、2027年春の稼働開始予定。

#### ◆9月 民間非居住建築物着工床面積

○ 234千㎡ 前年比 +284.6% (3か月ぶりの増加)

#### ◆10月 貨物車登録台数

○ 399台 前年比 +3.1% (2か月連続の増加)



## 4. 個別部門の動向:海外部門

給出	水準	評価						
刊山	基調判断	基調判断 前月比較		詳細	減少している			

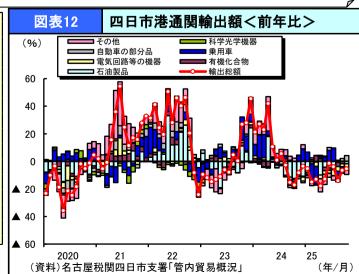
## ≪現状≫

- ○輸出は、減少している。
- ○10月の四日市港通関輸出額は、926億円(前年比▲5.3%)となり、前年比で15か月連続の減少(図表12)。 品目別にみると、自動車の部分品(同+50.2%)などが増加した一方、電気回路等の機器(同▲28.0%)や 乗用車(同▲12.7%)などが減少。

## ≪見通し≫

○日米関税交渉が合意に至り、当初の関税率から引き下げられたことから、自動車産業を中心に底堅く推移 する見通し。

#### ▶10月 四日市港通関輸出額 ○ 926億円 前年比 ▲5.3% (15か月連続の減少) •石油製品 47億円 前年比 ▲27.0% (2か月ぶりの減少) •有機化合物 67億円 前年比 +0.7% (6か月ぶりの増加) ・電気回路等の機器 59億円 前年比 ▲28.0% (15か月連続の減少) •乗用車 139億円 前年比 ▲12.7% (3か月連続の減少) 121億円 ・自動車の部分品 前年比 +50.2% (3か月連続の増加) •科学光学機器 3億円 前年比 ▲45.5% (6か月連続の減少)



## 5. 個別部門の動向:公共部門

八十也容	水準	評価		<b>A</b>						
公共权具	基調判断	基調判断 前月比較		詳細	持ち直しつつある					

#### ≪現状≫

- ○公共投資は、持ち直しつつある。
- 〇10月の公共工事請負状況をみると、請負件数は375件(前年比+4.5%)と2か月ぶりの増加。請負金額は156億円(同+7.1%)と4か月連続の増加(図表13)。請負金額を発注者別にみると、独立行政法人等(同 $\triangle$ 57.1%)、国( $\triangle$ 7.1%)が減少したものの、県(+7.6%)、市町(+5.2%)がそれぞれ増加。

#### ≪見通し≫

○11月19日に三重県は一般会計に8.7億円を追加する12月補正予算案を発表。出没が相次ぐクマの対応に 4.3百万円、妊産婦を支援する市町への補助費として1.8百万円などを計上する。

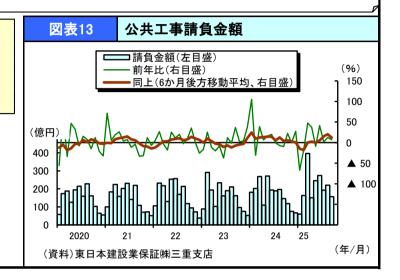
#### ◆10月 公共投資

- 公共工事請負件数 375件
  - 前年比 +4.5%

(2か月ぶりの増加)

○ 公共工事請負金額 156億円

前年比 +7.1% (4か月連続の増加)



## 6. 個別部門の動向:その他

物価	水準	評価							
193 JIMI	基調判断	前月比較	$\Rightarrow$	詳細	上昇している				

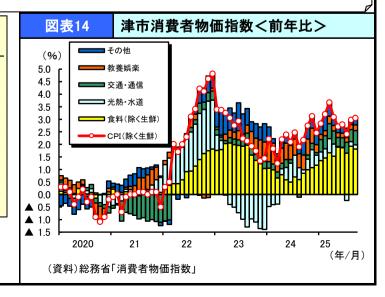
## ≪現状≫

- ○物価は、上昇している。
- ○10月の津市消費者物価指数(生鮮食品を除く)は前年比+3.1%と45か月連続の上昇(図表14)。生鮮食品を除く食料(同+7.6%)や交通・通信(同+3.3%)など、多くの項目で上昇。

#### ≪見通し≫

○エネルギー価格上昇の影響や企業の価格転嫁が想定を上回る水準で進んでおり、今後も消費者物価は上昇が続く見通し。なお、自民党の小野寺税制調査会長が、ガソリン税に上乗せされている 旧暫定税率と同額分の値下げ完了が12月中旬になると明らかにしており、ガソリン価格は低下する見通し。

#### ◆10月 消費者物価指数<生鮮食品を除く、2020年=100> 前年比 +3.1% (45か月連続の上昇) $\bigcirc$ 111.4 ・食料(生鮮食品を除く) 前年比 +7.6% (51か月連続の上昇) •住居 前年比 ▲0.3% (13か月ぶりの下落) •光熱•水道 前年比 +2.5% (2か月連続の上昇) •交通•通信 前年比 +3.3% (12か月連続の上昇) • 教養娯楽 前年比 +2.1% (34か月連続の上昇)



# 県 内 経 済 ト ピックス

(2025年10月)

## 1.三重県、全国初の罰則付きカスハラ防止条例制定へ

- ○10月7日、三重県の一見知事はカスタマーハラスメント防止条例に罰則規定を設ける方針を明らかにした。県は罰金などを定める意向で検察当局と調整しており、2026年度前半までの成立を目指す。 罰則付きで制定されれば全国初となる。
- ○一見知事は会見で、県の案では罰金を50万円以下とし、検察側と協議していると説明。「精神的ストレス で従業員が休職することもある。社会としてカスハラを看過してはいけない」と述べ、効果的な対策には 罰則が必要との見解を示した。

## 2. 医学×工学で「デジタルヘルス専攻」 三重大院・医学系研究科に新専攻設置へ

- ○10月29日、三重大学は定例の会見で大学院の医学研究科へ新たに「デジタルヘルス専攻」を新設する方針を明らかにした。医療現場や日常的な健康管理などで、デジタル技術の導入や活用の研究を担う。文部科学省と調整を進めており、2027年4月の設置を目指す。
- ○三重大によると、医療現場のニーズを把握した上で既存のデジタルデバイスの活用を考える全国的に も珍しい専攻になるという。
- ○三重大附属病院の佐久間院長は「現場の病院の中の課題解決を図る人材がすごく足りないので、 医療デジタルトランスフォーメーション(DX)がなかなか進まない。工学系の人に医療現場のニーズ を直接見てもらうのが大事ではないか」と話した。

## 3. 名古屋と賢島を結ぶ新たな観光列車が2026年秋に運行スタート

- ○10月31日、近畿日本鉄道は近鉄名古屋駅と賢島駅(三重県志摩市)間を結ぶ新たな観光列車「レ・サヴール・志摩」を2026年秋から運行すると発表した。2016年のG7伊勢志摩サミットで腕を振るった志摩観光ホテルの樋口宏江総料理長が監修した本格的なフレンチを楽しめる。
- ○4両編成の50席で全席指定。「サヴール」はフランス語で味や風味を意味する。 運行は週6日間。
- ○伊勢エビや伊勢まだいを使ったブイヤベース、熊野地鶏のコンフィなど地元の食材を使う。 四日市市で会見した樋口料理長は「旅の時間の中で地域の食を味わうことをテーマに五感で楽しめる メニューを考案した」と話した。

(出典)中日新聞

以上

## 景 気 指 標

三十三総研 2025/11/28

## <三重県>

(注)()内は前年(同期(月))比 <	(注)( )内は前年(同期(月))比 < >内は季節調整済前期(月)比										
	2023	2024	2024年		2025年				2025年		
	年	年	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	6月	7月	8月	9月	10月
大型小売店販売額(全店)	(1.1)	( 0.7)	( 0.3)	(1.2)	( 3.4)	(2.2)	( 3.3)	( 3.0)	(1.5)	(2.1)	
同 (既存店)	(0.3)	(1.1)	(1.2)	(1.7)	(2.8)	(1.0)	(2.2)	(1.9)	(0.4)	(0.7)	
新車販売台数(軽を除く、台)	54,820	54,634	13,070	15,297	11,842	12,917	4,501	4,616	3,434	4,867	4,632
	( 13.8)	<b>(▲</b> 0.3)	<b>(▲</b> 2.9)	(12.3)	<b>(▲</b> 0.4)	<b>(▲</b> 3.4)	( 0.9)	( <b>A</b> 4.9)	( <b>A</b> 6.9)	(0.7)	<b>(▲</b> 1.7)
うち乗用車販売台数(台)	48,492	48,294	11,755	13,713	10,655	11,421	4,049	4,101	2,992	4,328	4,109
	( 15.3)	<b>(▲</b> 0.4)	(▲ 0.9)	(11.7)	(0.7)	<b>(▲</b> 3.1)	(2.4)	<b>(▲</b> 3.7)	<b>(▲</b> 7.1)	(0.4)	<b>(</b> ▲ 2.9)
新車軽自動車販売台数(台)	39,708	34,947	8,912	10,520	8,402	9,482	2,992	3,167	2,582	3,733	3,428
	(4.7)	( <b>1</b> 2.0)	( <b>A</b> 12.1)	( 20.3)	( 9.9)	<b>(▲</b> 1.7)	( 3.5)	<b>(</b> ▲ 2.6)	<b>(▲</b> 3.5)	(0.3)	(9.2)
うち乗用車販売台数(台)	31,028	27,595	6,919	8,770	6,605	7,506	2,333	2,413	2,076	3,017	2,641
	(7.8)	( <b>A</b> 11.1)	( <b>1</b> 1.2)	(22.2)	(12.9)	<b>(</b> ▲ 1.9)	(5.9)	<b>(▲</b> 7.9)	(0.7)	(1.7)	(12.8)
新設住宅着工戸数(戸)	9,224	7,751	1,803	2,182	1,594	1,727	470	659	534	534	
	(▲ 6.9)	( <b>A</b> 16.0)	(▲ 13.8)	( 15.3)	(▲ 18.6)	<b>(▲</b> 17.6)	(▲ 30.4)	( <b>1</b> 0.0)	<b>(</b> ▲ 23.8)	( <b>A</b> 19.5)	
県内施設延べ宿泊者数(千人泊)	7,176	8,692	2,272	2,128	2,184		604	818	1,028		
	( 3.3)	(21.1)	(15.3)	(6.0)	(6.0)		<b>(</b> ▲ 0.3)	( 9.0)	(12.6)		
有効求人倍率(季調済)	1.31	1.17	1.13	1.16	1.16	1.16	1.13	1.16	1.14	1.18	
新規求人倍率(季調済)	2.08	1.94	1.91	2.04	1.97	2.03	1.80	2.12	2.03	1.94	
新規求人数(学卒・パート除く、人)	78,847	74,467	18,390	19,394	18,133	19,011	5,802	6,834	5,697	6,480	
	(▲ 8.3)	( <b>A</b> 5.6)	( <b>A</b> 3.8)	( <b>A</b> 0.9)	( <b>A</b> 0.2)	(3.7)	( <b>A</b> 0.1)	(3.2)	(0.2)	(7.6)	
名目賃金指数(調査産業計)	( 0.6)	( 4.5)	( 6.5)	( 3.5)	( 1.0)		( 0.8)	(5.8)	(2.5)		
実質賃金指数(同)	( <b>▲</b> 2.7)	(1.3)	(2.4)	<b>(</b> ▲ 0.7)	( <b>▲</b> 2.2)		( <b>▲</b> 2.1)	(2.5)	( <b>A</b> 0.6)		
所定外労働時間(同)	(▲ 11.7)	(2.2)	(10.1)	(5.8)	(6.0)		( 5.8)	(1.8)	(4.3)		
常用雇用指数(同)	(3.2)	(1.9)	(1.2)	(0.7)	( <b>A</b> 0.2)		( <b>A</b> 0.5)	(0.0)	(0.4)		
鉱工業生産指数	(▲ 5.1)	( 0.4)	( <b>A</b> 0.2)	(7.3)	(1.9)	<b>(</b> ▲ 1.6)	( 5.3)	<b>(</b> ▲ 5.4)	( <b>A</b> 6.0)	( 6.3)	
	_	_	<▲ 3.4>	<▲ 1.7>	⟨ 8.1⟩	<▲ 4.8>	<▲ 11.9>	<▲ 3.5>	<▲ 2.6>	< 12.9>	
生産者製品在庫指数	(1.5)	(▲ 8.9)	<b>(</b> ▲ 3.5)	<b>(</b> ▲ 0.7)	( 12.2)	(7.0)	(11.7)	(12.1)	(5.4)	( 3.9)	
	_	_	<▲ 1.8>	<▲ 3.1>	< 13.2>	<▲ 0.7>	<▲ 3.2>	<▲ 1.9>	<▲ 1.9>	< 3.5>	
企業倒産件数(件)	130	135	36	33	19	43	9	24	7	12	8
(前年同期(月)比)(件)	(65)	(5)	<b>(</b> ▲ 2)	(3)	( <b>A</b> 12)	(5)	( 0)	(12)	( <b>A</b> 11)	(4)	<b>(▲</b> 3)
民間非居住建築物着工床面積(千㎡)	553	574	135	93	228	305	72	32	39	234	
	(▲ 29.7)	(3.8)	(16.2)	<b>(</b> ▲ 35.3)	( 104.5)	(66.1)	( 140.3)	( <b>A</b> 49.4)	(▲ 34.4)	( 284.6)	
県内外国貿易 純輸出(百万円)	<b>▲</b> 1,324,497	<b>▲</b> 1,294,042	<b>▲</b> 314,264	<b>▲</b> 354,616	<b>▲</b> 222,064	<b>▲</b> 227,149	<b>▲</b> 41,761	<b>▲</b> 41,503	<b>▲</b> 93,248	<b>▲</b> 92,398	<b>▲</b> 89,258
輸出(百万円)	1,124,612	1,133,799	305,788	269,475	270,934	269,425	99,361	101,486	73,427	94,512	103,761
	(1.9)	(0.8)	( <b>1</b> 0.7)	<b>(</b> ▲ 2.3)	<b>(▲</b> 7.8)	<b>(</b> ▲ 1.2)	(5.3)	(8.4)	( <b>A</b> 18.8)	(6.5)	(0.8)
四日市港 輸出(百万円)	1,075,841				247,223	245,955	87,554	89,955	73,418	82,582	92,593
	(2.1)	(1.4)	( <b>A</b> 9.9)	( <b>A</b> 11.2)	( <b>A</b> 11.1)	(▲ 8.0)	( <b>1</b> .5)	( <b>A</b> 3.9)	( <b>▲</b> 14.0)	( <b>A</b> 6.6)	<b>(</b> ▲ 5.3)
輸入(百万円)	2,449,109		620,052	624,091	492,998	496,574	141,122	142,989	166,676	186,910	193,019
	( <b>▲</b> 7.6)		( <b>1</b> 0.7)	(4.0)	( <b>A</b> 23.9)	( <b>A</b> 23.9)	( <b>A</b> 29.4)	( <b>▲</b> 34.5)	( <b>▲</b> 27.4)	( <b>A</b> 8.6)	( <b>▲</b> 0.8)
公共工事請負金額(億円)	1,844		340	290	792	687	245	274	192	220	156
	( <b>▲</b> 3.7)			<b>(</b> ▲ 33.5)	( 22.0)	( 18.6)	<b>(</b> ▲ 9.5)	(41.5)	(1.7)	(12.3)	(7.1)
津市消費者物価指数	( 2.9)		( 3.1)	( 3.6)		( 2.7)	( 2.6)	(2.8)	( 2.5)	(2.9)	( 3.1)
同(除く生鮮)	(2.7)			( 3.0)		(2.7)	(2.7)		(2.4)	(3.0)	( 3.1)

## <東海3県(三重·愛知·岐阜)>

\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\											
	2023	2024	2024年 2025年			2025年					
	年	年	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	6月	7月	8月	9月	10月
大型小壳店販売額(全店)	(1.6)	(2.7)	( 0.7)	( 1.9)	( 1.6)	(2.3)	(▲ 0.1)	(1.0)	(2.6)	( 3.4)	
同(既存店)	( 0.9)	( 3.2)	(1.8)	(2.8)	(1.7)	(1.9)	<b>(▲</b> 0.1)	(1.4)	(1.9)	(2.5)	
新設住宅着工戸数(戸)	73,459	72,757	17,880	18,545	13,669	17,478	5,333	6,167	5,790	5,521	
	(▲ 8.3)	( <b>A</b> 1.0)	(▲ 1.8)	<b>(▲</b> 1.5)	<b>(▲</b> 21.8)	<b>(</b> ▲ 5.9)	(2.6)	(3.1)	(2.9)	(2.8)	
有効求人倍率(季調済)	1.39	1.31	1.29	1.31	1.31	1.28	1.28	1.29	1.27	1.27	
新規求人倍率(季調済)	2.39	2.35	2.34	2.41	2.35	2.30	2.30	2.35	2.33	2.24	
鉱工業生産指数	(3.5)	( <b>A</b> 2.8)	( <b>A</b> 1.1)	(7.0)	(1.1)	( <b>A</b> 0.4)	(4.5)	( <b>A</b> 1.0)	( <b>A</b> 1.9)	(4.0)	
	-	-	< 2.0>	< 3.7>	<▲ 4.1>	<▲ 2.0>	<▲ 4.0>	<▲ 1.2>	< 0.1>	< 0.8>	
企業倒産件数(件)	799	868	223	220	209	263	75	102	77	84	66
(前年同期(月)比)(件)	( 265)	(69)	(7)	(24)	( 0)	(23)	(13)	(8)	(4)	(11)	(▲ 8)
域内外国貿易 純輸出(億円)	88,899	99,401	28,206	23,384	24,488	24,248	9,073	9,174	6,649	8,425	10,171
輸出(億円)	212,571	225,311	60,353	56,625	55,354	55,837	18,941	19,747	16,496	19,594	20,819
	(11.5)	( 6.0)	( 0.7)	( 6.9)	(▲ 0.6)	(▲ 0.8)	( <b>A</b> 1.9)	<b>(</b> ▲ 5.3)	<b>(</b> ▲ 5.9)	(9.3)	(4.9)
輸入(億円)	123,672	125,911	32,147	33,242	30,865	31,589	9,867	10,573	9,847	11,170	10,647
	( 0.1)	(1.8)	<b>(</b> ▲ 2.2)	(12.7)	<b>(▲</b> 2.1)	<b>(▲</b> 3.6)	( 0.7)	<b>(▲</b> 7.8)	<b>(▲</b> 6.7)	(4.0)	<b>(</b> ▲ 2.7)

:各指標における直近の数値